

平成24年度
和歌山県サービス評価地域推進会議
報 告

一般社団法人和歌山県認知症支援協会
林 千恵子

一般社団法人和歌山県認知症支援協会

事業所・専門職支援部門

- ◇定例研修会
- ◇認知症介護実践研修

当事者・家族支援部門

- ◇電話相談
- ◇見守り支援員派遣
- ◇ピアカウンセリング
- ◇若年当事者・家族会

地域生活支援部門

- ◇情報の公表コールセンター・調査
- ◇外部評価
- ◇第三者評価

平成24年度

和歌山県サービス評価地域推進会議

(平成24年度厚生労働省老人保健健康増進等事業)

- 1 開催日 平成25年1月22日
- 2 実施主体 和歌山県 福祉保健部福祉保健政策局長寿社会課
- 3 実施機関 特定非営利活動法人 地域生活サポートセンター
※地域生活サポートセンターの補助事業の一環で実施
- 4 内容 (1) 講演 「サービス評価の効果的な実施、活用について」
平林 景子氏 (1時間10分)
(2) 意見交換会 (1時間25分)
 - ① グループワーク
 - ② 発表
- 5 参加対象 市町村担当者
地域密着型サービス事業所・職員
評価機関・調査員

会議の開催の働きかけの動機

評価機関・事業所・行政自治体が、評価の意義を共有できていないのでは？

- 評価機関（評価調査員）による認識の違い
- 事業所による取り組み方の違い。
- 市町村の担当者に
 - ◇地域密着型サービスをよく知ってほしい
 - ◇評価の意義を理解してもらいたい

開催に至る経緯

- 平成23年年11月、県主催フォローアップ研修（講師 平林景子氏）の中でサービス評価地域推進会議の取り組みが紹介された。
- 当会での開催も検討したが、県が実施主体とならなければ市町村の担当者の参加が見込めないと判断し、県に働きかける。
- 県が実施主体となり平成25年1月に開催。

参加状況

参加人数 140人(1グループ7・8人×18グループ)

評価機関 5／6機関 31人

事業所 47／147事業所※1 88人

市町村 16／30市町村※2 21人

※1:平成24年7月1日現在

※2:評価対象となる事業所がある市町村の数は27

自治体職員 参加者アンケートから

A

サービス評価について、職務の中では完成したものをみることにしかないので、作成時における問題点や、現場の実情を聞いて良かったです。

今までサービス評価についてフォーカスすることがあまりなかったのですが、今後は気を付けながら見てみたいと思います。

グループワークという形での研修でしたが、行政、事業所、第三者が意見を交換するというのは、なかなか機会がないので、今回の研修は、とても有意義なものだったと思います。

B

サービス評価については、管内の事業所から内容を提出していただくが、いまいち信用できないというか、良い部分しか記載されていないのでは、と考えていた。

今日、事業所、評価機関を交えて話し合う機会を設けてもらい、実際どのように評価なさっているのか理解できた。

しかし、事業所によっては、悪い評価を書かないでほしいと頼み込んでくるようで、怪しい部分はあると思う。

実施してみてもよかったこと

実際に話し合う場が持てたことで、参加者それぞれに得るものがあった。

特に、自治体職員を交えて話し合う機会が持てて、現場の実際の声を聞いてもらえたことがよかった。アンケートには「介護知識を身につけていきたい」「運営推進会議への参加率を高めていきたい」などの記載もみられ、地域密着型サービスやサービス評価に関心を持って取り組んでもらうきっかけとなった。

反省点と今後

- ・1グループ7～8人で話しやすかったが、グループ数が18と多く、グループの構成に偏りができていたのが残念だった。
当機関から調査員6名が参加したが、グループ内に調査員が1人で、他の機関の調査員の意見を聞くことができなかった。
- ・グループに調査員が1人の場合、個人の言葉が、評価機関全体の声と受け取られる恐れもある。

今回の実施を次に繋げて、
毎年開催できるようにしていきたい